

令和8年度 学校経営計画書

学校名 三次市立作木中学校

校長名 米丸 康司

I 学校の状況

学級数	3学級	生徒数	12名	教職員数	11名
メールアドレス	sakugi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/sakugi-j/				

II 学校教育目標

<p><作木中学校区小中一貫教育目標> ふるさとを愛し、新しい時代をたくましく生きる児童生徒の育成</p> <p><三次市立作木中学校 学校教育目標> 「自律」・「協働」・「挑戦」 ～ふるさとを愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～</p> <p>自律とは 主体性の育成 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学びをまとめ振り返り、次の学習につなげること</p> <p>協働とは 社会性の育成 ・自分のよさや可能性を認識し、他者を価値のある存在として尊重し、同じ目的に向かって、それぞれの良さを発揮しながら、協力して取り組むこと</p> <p>挑戦とは 創造性の育成 ・自分の願いをもち、その実現のために意欲的に取り組む強い意志と実践力のこと</p> <p><めざす生徒像> ・基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒 ・しっかり考え判断し、表現できる生徒 ・課題解決に向けて、他者と協働し、粘り強く主体的に取り組む生徒 ・自己理解を深め、他者を大切にしたい行動ができる生徒</p>

III 使命・存在意義（ミッション）

<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを創造し、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。</p> <p>(2) 地域の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさとを愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。</p> <p>(3) コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。</p>
--

IV 重点事項（努力点）

<p>学校教育目標の実現のために、次のような資質・能力の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">○ 知識・技能<ul style="list-style-type: none">・各教科の基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着○ 思考力・判断力・表現力<ul style="list-style-type: none">・様々な情報や根拠をもとに、しっかり考え判断することができる。・自分の考えや思いを相手に応じた表現を用いて分かりやすく伝えることができる。・他者の考えを受け入れ、他者と協働し、課題を解決することができる。○ 学びに向かう力<ul style="list-style-type: none">・日本や世界の魅力や問題に目を向けつつ、自分や身近な人が関わる課題に対して見通しを持って粘り強く取り組むことができる。・自分の学び方を理解し、自らの学習を調整することができる。○ 自己理解<ul style="list-style-type: none">・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重することができる。・自分の言動が相手に及ぼす影響が分かる。・自分の悩みを話せる人を持つ。

V 中心価値・行動規範

全教職員が遵守すべき規範・行動指針はつぎの通りです。

【チームで信頼される学校づくり】

- (1) 生徒の心に寄り添い、信頼される教職員になります。
- (2) 目的達成のため組織的・協働的に動く教職員になります。
- (3) 自ら学び続け、新たなものに積極的に挑戦する教職員になります。
- (4) 教育公務員としての自覚と誇りをもち、保護者・地域と協働して、生徒と共に夢の実現にチャレンジする教職員になります。

VI 現状分析

◆確かな学力

令和7年度三次市学力到達度検査 ※ () は全国平均との差、【基礎】【活用】は全国平均との差

<新2学年>

・国語	57.3	(- 5.7)	【基礎】+	4.2	【活用】-	26.8
・社会	60.0	(+ 4.1)	【基礎】+	5.9	【活用】-	0.2
・数学	40.0	(-17.0)	【基礎】-	15.4	【活用】-	23.8
・理科	64.3	(+ 6.7)	【基礎】+	5.9	【活用】+	7.9
・英語	49.5	(- 2.4)	【基礎】-	1.5	【活用】-	4.4

<新3学年>

・国語	67.2	(- 3.0)	【基礎】-	2.7	【活用】-	3.9
・社会	50.0	(- 2.6)	【基礎】+	1.3	【活用】-	13.0
・数学	36.7	(-13.8)	【基礎】-	14.9	【活用】-	10.2
・理科	47.6	(- 2.9)	【基礎】-	1.3	【活用】-	7.5
・英語	35.9	(-15.1)	【基礎】-	17.9	【活用】-	8.8

- 新2学年は、全国平均を上回っている教科は、社会、理科であり、下回っているのは、国語、数学、英語である。特に、数学が課題である。新3年生は、すべての教科で全国平均を下回っている。特に、数学、英語が課題である。平均して、新2年生は2.9ポイント、新3年生は7.5ポイント全国平均を下回っている。
- 生徒アンケートから昨年度と比較して、「自分の考えを積極的に伝えている」「根拠を明らかにして相手につたえている」の肯定的評価は、それぞれ81%から100%、77%から82%と上昇している。「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力している。」の肯定的評価は、73%から68%に5ポイント減少している。
- ☆ 基礎的・基本的な学力の定着、自律的な学習態度の育成が大きな課題であり、日常的な授業改善・課題の工夫・帯時間の工夫等、継続した組織的な取組を行っていく。

◆豊かな心

「自分には、いいところがあると思いますか。」への肯定的回答 (令和7年度「i-check」)

<新2学年> 100% (全国70.2%) <新3学年> 83.3% (全国70.0%)

「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」への肯定的回答

<新2学年> 33.3% (全国90.3%) <新3学年> 83.3% (全国89.4%)

「自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだなと感じることがありますか。」への肯定的回答

<新2学年> 33.3% (全国58.7%) <新3学年> 83.3% (全国58.4%)

- 自己肯定感に関する肯定的な回答については、新2年生は、「自分には、いいところがあると思いますか。」の肯定的評価は100%であるが、成功体験や自分への自信については33.3%と低い数値である。新3年生は、3つの設問とも肯定的評価は83.3%である。昨年度と比較して、肯定的な評価が上昇している。
- 令和7年12月に実施した生徒アンケートから、「学校生活は充実している」の肯定的回答は72%であり、昨年度と比較して9ポイント減少している。
- 生徒アンケートから「道徳の授業は好きです。」の肯定的回答は81%（昨年度82%）、「勉強したことを、自分の生活に生かしています。」の肯定的回答は91%（昨年度91%）であった。昨年度とあまり変化はなかった。
- ☆ 新3年生は、改善傾向にある。新2年生は、成功体験（自分への自信）等に課題がある。様々な取り組みを通して、成功体験を積み重ねる中で改善を図っていく。また、新2・3年生ともに、授業及び生徒会活動等を通して、自己指導能力を育成していく。

◆健やかな体

- 令和7年度「新体力テスト」の結果から、全国・県平均を上回っている割合は、新2学年37.5%、新3学年56.2%であった。特に、特に筋力、敏捷性、瞬発力、全身持久力、スピードに課題がある。
- 基本的な生活習慣については、家庭学習の開始時刻、就寝時刻が固定の出来ている生徒の割合は約50%であり、課題である。
- ☆ 保健体育科の授業において、単元に関わる体力づくりトレーニングを行うとともに、部活動において、体力づくりに関するメニューを工夫していく。
- ☆ 基本的な生活習慣を身に着けるために、保護者への連携及び啓発を継続して行っていく。

◆信頼される学校

- 令和7年12月に実施した保護者アンケートから、「学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。」の肯定的評価は95%（昨年度86%）、「作木中学校の教育に満足している」の肯定的回答は79%（昨年度71%）であった。昨年度と比較して上昇している。
- 令和7年12月に実施した生徒アンケートから、「自分の住んでいる地域のことが好きです。」の質問に対し肯定的回答は77%（昨年度77%）、「現在または将来、地域に貢献していきたいという思いを持っています。」の肯定的回答は68%（昨年度69%）であった。
- 令和7年12月に実施した職員アンケートから、「子供と向き合う時間が確保されている」の肯定的回答は80%（昨年度60%）、「自分は業務改善を意識している」の肯定的回答は100%であった。職員の意識の向上が見られる。
- ☆ 保護者・地域への情報発信を継続するとともに、コミュニティ・スクール（4年目）として、地域の方の学校教育への参画の機会を増やしていく。
- ☆ 新コア・カリキュラムの実践を通して、生徒の活動の質の向上を図ると共に、適時な評価・指導で生徒の地域への愛着や貢献意識を高めていく。
- ☆ 教育の質の向上を図るために、個々の職員の働き方を考えさせるとともに、教材研究の時間の確保、業務の適正化・効率化を工夫していく。

■令和9年度の再配置に向けて

- ☆ 管理職連携を密に行い、計画的に取組を進めていく。
教職員（主任等）の連携を定期的に行い、再配置後の円滑な学校づくりに繋げていく。
生徒交流を計画的に行い、生徒・保護者の不安を解消していく。